

(3)高知市立城西中学校

宮田 龍 (高知市立城西中学校 校長)

- 1.城西中学校の校長の宮田と申します。うちの三浦先生です。前任校の潮江中学校でも一緒でした。前任校で、彼は防災主任、生徒指導を担当し、3年間組んでやっていました。先ほどの話ではないですが、大変厳しい学校でございまして、赴任した当時は1年間でガラスが100枚も割られました。防災教育と生徒指導を取り入れることによって、3年目の最後の年は、20枚に減りました。昨年城西中学校に赴任しました。城西中学校からは高知城がすぐ前に見えます。学校から直線で100mくらい行きますと坂本龍馬の生誕地がございまして。うちの校区でございまして。
- 2.今日のお話のポイントは二つでございまして。『城西龍馬新聞』を作成し、発信しました。テーマは防災を中心に行っていました。そして、道徳の冊子を作成し発信しました。新聞づくりはNIEを昔から好きでしたのでやっておりましたが、道徳教育につきましては、昨年城西中に来てから勉強いたしました。平成30年度に道徳の教科化が始まります。今まで反対をしておりましたが、やるならば一番に冊子を作り、先に実践していこうという思いがあります。
- 3.うちの校訓は、長い間「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という考えでした。私はそれを具現化するなかで、偉人ではなく先人の思いをポイントにし、「龍馬の夢と志は、城西中学校の生徒の夢と志」を設定しました。学校教育には『夢と志』がなければ、教育の本筋から外れるという思いから、ここをポイントにおきました。
- 4.では、『龍馬の夢と志』を持っていくなかで、何をするかというと、『防災教育』、そして『道徳教育』です。道徳、同和教育、人権教育は、前々任校の朝倉中学校でも長い間実践してきました。人権同和教育と道徳教育は、ある面では対極にあります。しかし、龍馬の勉強をしていくと、薩摩と長州が対極にあったということはないかもしれないけれども、子どもの幸せや思いを大事にしていくことはしっかりと一緒にやっっていこう、という思いで道徳教育を中心に入れております。そして、『観光教育』。私はこれから観光教育だと思っております。観光教育というのは、郷土に自信と誇りがなければ、絶対自分の土地の良さをPRする



宮田 龍先生



三浦 洋志先生

<p>防災教育連絡協議会にて</p>  <p>平成27年12月27日【日】 城西中学校 宮田 龍</p> <p>1</p>
<p>今回の取組のポイント</p> <ul style="list-style-type: none">*「城西龍馬新聞」の作成・発信 テーマは防災を中心に！*「道徳の冊子」の作成・発信 《龍馬地震への八策》 <p>2</p>
<p>本校の教育の校訓が、 「ひとりみんなのために みんなはひとりのために」を伝統として教職員・生徒も長い間引き継いできている。</p> <p>⇒昨年度(平成26年度)に現在の生徒へのメッセージとして、先人の龍馬にスポットをあて、 「龍馬の夢と志は 城西中生徒の夢と志」と目標を設定した。</p>  <p>3</p>

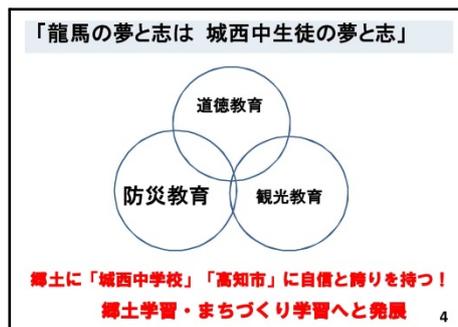
ことはできないと思っております。最近、観光教育学会が立ち上がりましたが、どうしても観光教育も入れていかなければならない。城西中学校は高知市の真ん前でございますから、取り組めるんじゃないかなと思いました。という思いで、城西中学校、高知市に自信と誇りを持つ、そして、郷土学習、町づくり学習へと発展をしたい。私は、防災教育は『自信と誇りを持つ教育だ』と思っております。もっと言えば、人権教育で勉強してきた中の『優しさの教育』ではなかったかなと自分自身は思っております。

- 5.今日は防災教育に特化してご説明させていただきます。『龍馬の地震への八策』、『交通安全の八策』を作りました。
- 6.『地震への八策』の内容は資料を見て頂いたら、おわかりになると思っております。子どもたちと一緒に作りました。実際のところ、子どもが六割で、教員が四割くらいは力を入れております。いろいろなテーマで八策を作っておりますが、最後の方に作った『観光教育の八策』では、子どもが95%、教員が5%くらい力しかいれなくても作れるようになりました。

『龍馬の八策』にちなみまして、『食育への八策』とか『交通安全の八策』、『観光教育の八策』など作りました。三つ四つでは足りませんが、五つになると結構いい、十個では多すぎる。だから、八策、八本としたのは、上手くできたなと思っております。『地震への八策』は約3,000枚作りまして配りました。高知市長さんに大変気に入って頂きまして、庁議にかけて、そして高知市の内容としていただきました。

- 7.昨年作った『城西龍馬新聞』です。一号は龍馬が食べたであろうという食事です。そして二号が「地震でも『八策』ぜよ!!!」という形です。防災教育を目立たせたいということで、二号を一番にして表に、一号は裏にしました。中味は全て、『チーム龍馬』が作りました。うちのスポーツクラブの子はあまり強くないですけど、よく頑張ってくれています。私は勝った負けたというよりも、家庭科部とか華道部とか、あまり目立たないクラブの子がどうか、こういう機会を通じて活躍できるかと思って、龍馬が食べたであろうという食事の再現、地産地消をテーマにしました。

- 8.昨年、この新聞と八策を出しましたら、国土強靱化という中で特別賞を頂きました。八策という切り口が上手かったのではないかと。
- 9.今年は、気仙沼市立階上中学校とテレビ会議を行いました。『薩長土生徒フォーラム』ということで進



平成26年度
「龍馬の夢と志は 城西中学生の夢と志」
テーマを打ち出す。
*「龍馬の地震への八策」
*「龍馬の交通安全八策」
◎「城西龍馬新聞」の発行
※国土強靱化大賞の特別賞



平成27年度
◎7月9日(木)階上中学校と【防災について】テレビ会議
文科省政務官来校
◎7月28日(火)「平成の薩長土生徒フォーラム」城西中にて
○「龍馬の食育への八策」作成中
◎「城西龍馬新聞」の発行
※道徳の教科化(地域教材)
1月17日(日)自主発表会

めていきました。

城西中学校を紹介するのを忘れておりました。龍馬の生まれた町にある学校で、生徒数 350 名です。いろんな学校に赴任してまいりましたが、現在の城西中学校は大変素晴らしいです。エスケープはゼロ、金髪はゼロ、煙草を吸う子どももゼロです。学力は上から何番という学校です。今まで厳しい学校で闘ってまいりましたので、いい学校はもっと良くしていこうと。「こういうこともできるんだよ」という形を前に出していくのが仕事かと思っております。

例えば、この新聞ですが、A3 で作っておりますけども、これを意図的に拡大版にして、4,000 部作りました。保護者に配り、地域にも配りました。学校の前に『龍馬の生まれた町記念館』がありますので、そこも置いています。500 部位置きますと、一ヶ月でなくなります。新聞を大きくして作るお金はどこからできてきているかという、裏面の隅を見てもらったらわかりますけれども、いろんなところの助成団体やから出ております。それから企業の広告です。

10.今年 9 月 29 日、藤井先生（京都大学大学院教授）に本校に来て、土木学会が作成した「防災まちづくり・くにづくり」に関する授業を行ってくれました。

11.うちの学校の隣に、高知県で唯一の盲学校があるんです。そこで、盲学校の子どもたちと一緒に勉強して、そ

して点字で八策を作ろうじゃないかということになりました。私は、長い間、人権教育を進めてきておりましたけれども、うちの子どもから学び直しました。この点字の勉強を通じて、優秀な子どもから言われたのは、「防災教育で一番大事なのは、ハンディキャップという辛い思いの人が全部助かったら、防災教育で一番いい特典なのかもしれないですね」、というような言い方をしていました。

12.前任校では、『八策』を、英語、中国語、韓国語に翻訳していました。中国からの子ども、韓国からの子どもがいたので、「ぜひ作ってくれ」と言ったら、自信をもって全部中国語、韓国語に直してきてくれました。前任校で、韓国、中国からの留学生と話をしておいたら、「高知県で南海トラフの地震が来るのを知らなかった」、「全然聞いたことがない」と言っていました。それで、中国語、韓国語のポスターを作って、高知大学等々に置かせてもらい、大変インパクトがあったなと思っております。

城西中学校には、中国、韓国からの子どもは現在いませんので、英語版をつくりました。優秀な子どもたちなので、ほとんど自分たちでつくりました。校正は ALT がさっとやってくれましたね。それで、せっかく作ったのをそのままにしておいてもいけないので、高知市の観光課に持って行って、観光課で配ってもらうようにしました。

13.学校教育の中に大学の力を入れるのは当然ですけれども、私は企業の力、行政の力、民間の力を入れることは絶対必要だと思っています。その中で、企業の協力、災害救援槽を中庭に置いてもらいました。もちろん無料です。学校教育の中に、企業の力、アイデアを入れることは、ある面ではインパクト



トがあるんじゃないかなと思っております。普段はこの中に、トイレットペーパーや防災グッズ、トイレの上屋を入れております。そして地震が起こったときには、自分たちで上屋を建てる。下は便槽として使うことになり、500人が30日間使えるということなので、1,500人くらいの便槽として使えるんじゃないかなと思います。地下に埋めてあるので、中庭はフラットになっています。身近にこういうものが設置してあると、子どもたちの意識付けになって、大変いいんじゃないかなって感じです。

15.先ほどご説明したように、中学校で防災のテレビ会議を日本初で取り組みました。

全校の子どもたちが、階上中学校の生徒がしゃべることを各教室で聞きました。本当は、階上中学校へうちの子も350人全員が行って、自分で勉強するのが一番大事です。それが駄目なら、体験している方に来てもらって、お話を聞く。しかし、もっと有効的なことは、子ども同士で話することだと思ひまして、宮城県の階上中学校との防災の交流をテレビ会議で行いました。

16.こんな感じです。事前にうちも勉強しておきましたけれども、宮城県で災害を経験した子との話し合いは、雲泥の差でしたね。こんな質問しても、相手は全然中味が違ってましたね。

17-18.その後、私は生徒4人代表として気仙沼のその学校まで行ってきてもらいました。

19-20.帰りに永田町に寄りまして、国会、総務省、文科省等々にも寄って帰ってまいりました。

21-23 行ってただけで、そのまま終わるわけにはいけないうこと、訪問した子どもたちには新聞を作ってもらいました。「つながる防災への思い」という記事です。

24.そして、全校生徒に見せたんですね。子どもたちは読んで、びっくりしていました。行ってきたといことは聞いていたけれど、「こんなふうに仲間は感じてきたのか」「こんな勉強してきたのか」という形で、仲間の感動や学習が思い浮かんだということです。子どもたち同士の内容というものは影響力があるなと思っています。

25.「龍馬の夢と志は城西中学校の生徒の夢と志」を作っております。この中に、『龍馬の八策』とか、『地震の八策』。そしてまた『観光への八策』を作っております。八策シリーズは、全てアクティブラーニングにしております。「こうしなさい」とは何一つ書いておりません。自分たちで「この八策



15



16



階上中交流の様子

18



23



24

からどんな事がわかるか」、そして「どんな答えを導いているか」を重視しています。

今までに授業で実践していたときに、読み物資料を見せましたら、勘取りのいい子どもは、読んだ瞬間に「公正公平だ」とぼつと答えを言うてしまうんですね。そして、授業をやっていると、授業をやっている私の心情を読むんですね、「宮田は何が言いたいのか」と。読み物資料を使った指導法、やり方がまずかったんでしょうね。だからこそ、子どもたちが自分で問題解決をしていく指導をしていく。

26.例えば、『地震の八策』を見て、その中味を考えて、「一番から八策までの中で、一番好きなのは何だ」、それは「どうしてだ」とか、「八策だけじゃなくて九番目もあるはずだ」、じゃあ「九番目の落っこちてしまうところは何だろうな」と考えるなど、ゲストティーチャーをいれて、みんなで一緒になって研究していこうかなと思っているところです。

27.うちの学校が、しっかりと『防災教育』にアプローチしたのは、昨年からになります。もちろん高知市内の学校ですので、それまでものある程度のベースはございます。私は、大枠の中で、『観光教育』、『道徳教育』、そして『防災教育』を重ねた中で、「龍馬の夢と志は城西中の生徒の夢と志」なんだと、こういうところに持っていきたい思いがあって、今進めているところです。

私は、城西中学校の生徒に「自信と誇りを持たす」、「これが学校経営の骨である」。そんなふうにして、いろんな形で勉強させて頂いて、『防災教育』がその中の大きなポイントであると思っています。ありがとうございます。

コメント：小川 正（輪島市立輪島中学校 校長）

今日の三本の事例発表を聞いて、自分は防災教育の関わりで来たんですけども、教員研究にきたのかと疑うような感じで今降ります。二つ目の大阪の先生のお話は初任者研修、一つ目のお話は中堅の先生方の研修、そして三つ目の校長先生のお話が管理職研修と、三本とも素晴らしい講演でした。



小川 正先生

自分が思っていたのは、校長先生の発想力、そういったところから考えると、防災教育だけではないですけども、トップに立つ者もあるいは新人であってもそうですが、まずやっぱりクリエイティブであるというか、『創造性』、これが一番大事なんだと思いました。これは、片田先生が提唱された『想定にとられるな』と通じるところです。

またアクティブに、そしてポジティブに進んでいくためには、率先して何かをしていくことが必要かと思えます。「率先先駆者たれ」と勝手に思っているんですけども、こういったことを感じます。

そして、「最善を尽くせ」ということもそうですけれども、防災教育をやっていくときに、自分も感じているのは、『発信する力』。先ほど、黒潮町では、「逆手に取って 34m の旗のマーク」をつくられていました。そして、宮田校長先生は「この新聞もわざと大きくしました」とおっしゃいました。今年の夏、新庄中学校へお邪魔したときに体育館に新聞の切り抜きが貼ってあったんですけども、これもパネル大に拡大してありました。具体的にしっかりと「見える化」して大きく発信していく。「大きなことは、いいことだ」って昔言いましたね。それがやっぱり大事なんだと。

もう一つは『柔軟さ』。これは絶対大事かなと思います。黒潮町さんもそうでした。また、このパンフレットの裏には「この冊子は〇〇の助成により作成しました」と書いてあります。何を作成するにしてもお金がかかります。そのお金をどうやって取ってくるのか。こういったところに一つヒントがあるのかなと。

もう一点は、午前中の座談会の中で、「防災教育を進めていくときに、何が一番根本的に大事ですか」と。リアリティの問題もありました。でも、自分がその時に感じたのは、「未来へ生きていきたいという思い」がなければ、逃げたいという思いにはつながらない。つまり、「未来にこの地域に住みたい」とか、「将来大きくなってささやかでも小さな家庭を作りたい」とか、「僕はこういう大学へ進学したい」、だから「今死ぬわけにはいかない」と。一番基本的なところが大事なんじゃないのかな。それが何かと考えたときに、『志』かなと思っていたんです。

大河ドラマの「花燃ゆ」の中に、「何故学ぶか」と。「学んで考えるんだ。それが生きる力につながるんだ。」と美和さんが話しました。生きる力とは、そういう事かとおぼろげながら思っていました。また「お前に志はあるか」と龍馬が美和さんに問いかけました。校長先生がつくられた「龍馬の夢と志は、城西中学校の生徒の夢と志」は、そのまま持って帰ろうと思いました。「〇〇の夢と志は、輪島中生徒の夢と志」。『希（まれ）』が、一生懸命パティシエへの夢を語っていました。これに引っ掛けて何とかしてやろう、と思っています。

校長先生がここで話されているのを聞いて、「次は何をするんだろう」と何となくわくわくしてきました。文科省へ行ってみたり、色んなところへ行ってみたりと、次から次へとアイデア出てきますよね。こうやってアイデアがでてきているときは、当然ポジティブですし、そういったエネルギーがでるときなんですね。マイナス思考がないとき。防災教育にマイナス思考はいらないと思います。逆に防災教育は、プラス思考を発揮する絶好の機会。アクティブラーニングの使用もそうですし、解はないんで安心してチャレンジできると思います。だから、できることから手当たり次第にやっていく。「次何するの」って、子どもたちから言うてくるくらいに、どんどんアイデアをだしていける、そういう事が今の校長先生のお話の中から出てきたんじゃないかなと思います。

それから今ちょうど『能登半島』、『希』と引っ掛けて、輪島を宣伝したい」と思っていたところに、『観光』を三つの柱の一つにされていた。今日は自分のためにお話いただいたのかと思いました。『観光』と『道徳』と『防災』、これも持って帰ってすぐに使える。要はアンテナを如何に高くして、いろんなところに繋いでいくのか。ですから、防災教育のキーワードは、「つなぐ」なのかなと思っています。年代をつなぐ、地域をつなぐ、文科をつなぐ、何でもいいから「つなぐ」をキーワードにすれば、そこから色々な切り口ができるのかなと思っています。そういう意味では、三校の学校の先生方から本当に素晴らしい発表を頂きました。ありがとうございます。